（スライド1）

- 今年の4月からCFOに就任した武田でございます。
- これまで同じヘルスケア業界でCFOを含めいくつかのコーポレート機能の責任者を務めてきました。
- 今後、IRのメンバーとともに、資本市場を中心に社外ステークホルダーの皆様との対話をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

- まず初めに、新型コロナウイルスによりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。
- 当社は、社員の安全面、拡散防止という社会的な責任に最大限配慮しながら、医療機器メーカーとしての責務を果たすために、製品やサービスの安定的な供給を続けてまいります。

- さて、改めまして、本日は「2020年3月期 決算電話会議」にご参加いただき誠に有難うございます。
- それでは早速、決算概況についてご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

2020年3月期 通期実績

前年比

- ☑ 売上高： 連結では為替を除く実質ベースで4%増収
  医療分野は3期連続、過去最高の売上を達成
- ☑ 営業利益： 販管費の効率化が奏功する等、大幅な増益を実現
  – 販管費率は4.3pt改善し、50.8%

見通し比

- ☑ 売上高・営業利益：新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、計画を下回る結果
  この影響を除くと、売上高・営業利益ともに計画通り

（スライド3）

- スライド3ページをご覧ください。
- 2020年3月期の連結業績における主なポイントです。
- まずは前年比です。
- 新型コロナウイルスの影響で第4四半期、特に世界的に感染が拡大した3月に売上成長が減速したものの、増収増益です。
- 連結売上高は、為替を除く実質ベースで、前年比4%の増収となりました。当社の主力ビジネスである医療分野は3期連続で過去最高の売上を達成しております。
- 営業利益は大幅に増加です。販管費の大幅な減少などが奏功しました。
- 見通しに対しては、売上、営業利益ともに下回る結果となりました。見通しを修正した2月時点では想定できなかった新型コロナウイルスによる市場・活動などの大きな変化を受け、第4四半期に売上成長が減速したためです。

OLYMPUS

01 2020年3月期 連結業績および事業概況

（スライド4）

- それでは、2020年3月期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2020年3月期 通期実績 ①連結業績概況

1 売上高： 3期連続、過去最高の売上高を達成した医療分野が牽引。為替を除く実質ベースで4%の増収
2 営業利益： 販管費は減少し、営業利益は大幅な増益を達成

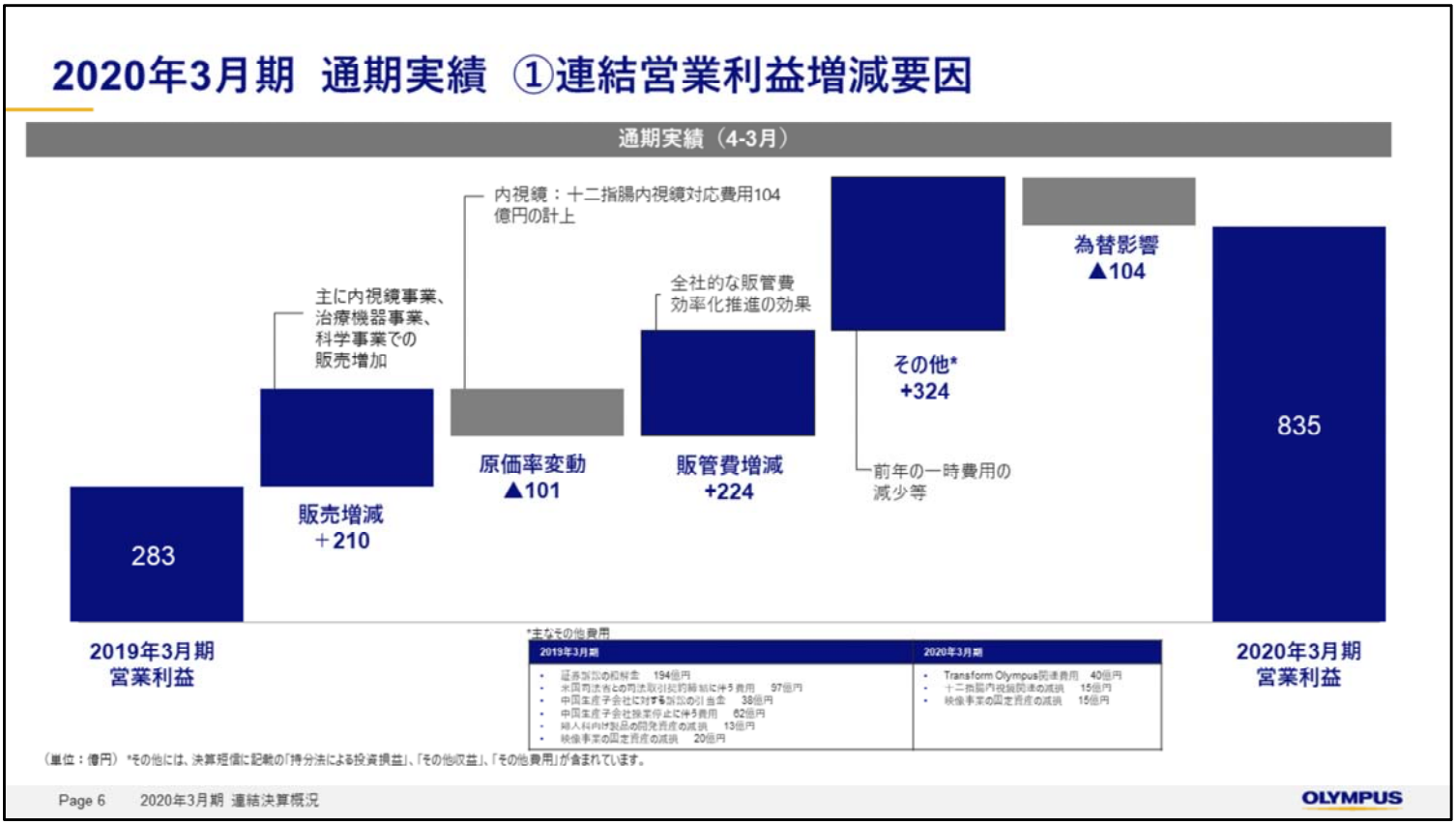
	通期実績（4-3月）					参考数値
（単位：億円）	2019年3月期		2020年3月期	前年比	為替影響調整後	為替+Covid-19 影響調整後
売上高	7,939	1	7,974	0%	+4%	+5%
売上総利益 （売上総利益率）	5,096 (64.2%)		4,996 (62.6%)	▲2%	+2%	+4%
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	4,375 (55.1%)	2	4,050 (50.8%)	▲7%	▲5%	▲5%
その他の収益および費用等	▲438		▲111	-	-	-
営業利益 （営業利益率）	283 (3.6%)	2	835 (10.5%)	+195%	+232%	+259%
税引前利益 （税引前利益率）	201 (2.5%)		778 (9.8%)	+287%		
親会社の所有者に帰属する当期利益 （親会社の所有者に帰属する当期利益率）	81 (1.0%)		517 (6.5%)	+534%		
EPS	6円		39円			
円／USドル	111円		109円			
円／Euro	128円		121円			
円／CNY	17円		16円			

2020年3月期配当
年間配当10円

Page 5 2020年3月期 連結決算概況 OLYMPUS

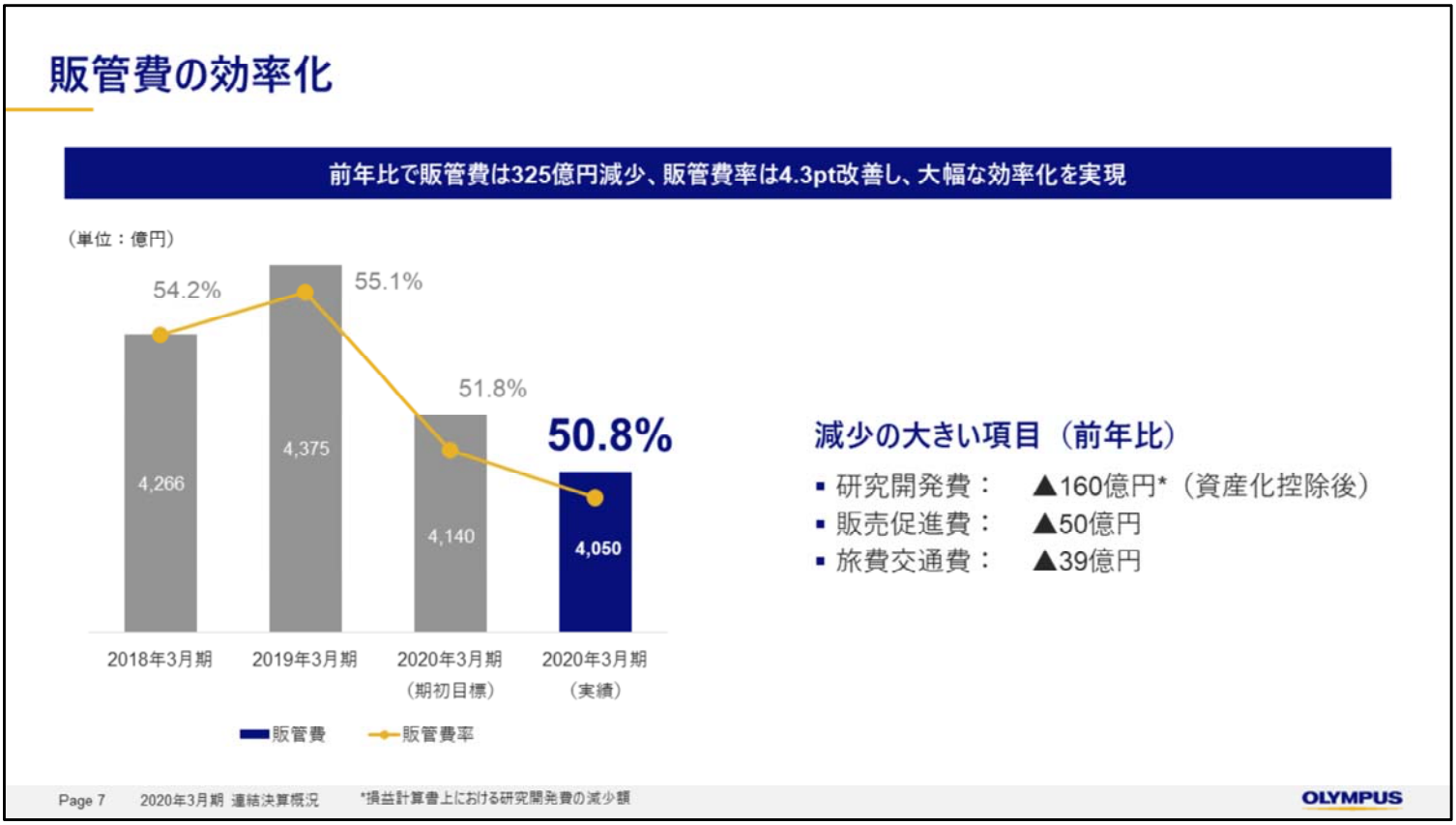
（スライド5）

- スライド5ページをご覧ください。
- 連結売上高は、7,974億円です。3期連続で過去最高の売上高を達成した医療分野が牽引しました。
- 為替を除く実質ベースでは、4%の増収と堅調に推移しております。
- 売上総利益は4,996億円でした。原価率が上昇しました。
- 十二指腸内視鏡対応のため、一時的な費用として104億円を売上原価に計上したことが要因です。
- 為替の影響を除くと前年比2%改善となりました。
- 販管費は、4,050億円、前年比で325億円減少しました。全社で効率化に向けて行った取り組みの成果が含まれます。
- 営業利益は835億円、為替の影響を除くと、232%と大幅に増加しました。販管費の減少に加え、その他の費用が減少したことが主な要因です。
- 当期利益は、517億円と、435億円増加しました。
- 自己株式取得による発行済株式数の減少効果も含め、一株当たり当期利益は39円と大幅に増加しました。
- 第4四半期、特に3月、新型コロナウイルスの影響が認められます。
- 為替と併せた影響調整後の増減をスライドに参考数値として掲載しました。
- 売上高は5%の増加、営業利益は、259%の増加と分析しております。ご確認ください。



（スライド6）

- スライド6ページをご覧ください。
- 通期実績の営業利益の主な増減要因について、ウォーターフォールチャートを用いて示しておりますので、ご参照ください。



（スライド7）

- スライド7ページをご覧ください。
- 販管費の効率化について詳しくご説明いたします。
- 2019年1月に発表した企業変革プラン「Transform Olympus」において「真のグローバル企業」に向けた課題の1つに、営業利益率の改善を掲げました。
- その第一歩として、まず、販管費を2018年3月期の水準にまで圧縮することを目標としました。
- 全ての事業や機能を対象にしたプロジェクトを立ち上げ、テーマを抽出、改善策を順次実施しておりますが、その成果が表れております。
- 研究開発費は、前年比で160億円減少しました。研究開発が順調に進み、より多くの開発費が資産化されたことに加えて、収益性を判断軸として長期の研究開発テーマの精査を行ったことによるものです。
- 販促活動の見直しにより販売促進費を50億円、Web会議を積極的に活用し国内外の出張を大幅に削減するなどを通して旅費交通費を39億円削減しました。
- このプロジェクトにはCEOの竹内を含む5人の執行役全員が関連会合に出席し、進捗を確認する、必要に応じその場で意思決定をするという運営が執り行われております。引き続き、経営戦略で掲げた目標に向けて本取り組みを続けていきます。

2020年3月期 通期実績 ①連結業績概況（見通し比）

1 売上高： 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、計画を下回る結果（この影響を除くと、計画通りの進捗）
2 営業利益： 新型コロナウイルスの影響による売上減に伴う粗利減を主要因に、計画を下回る結果

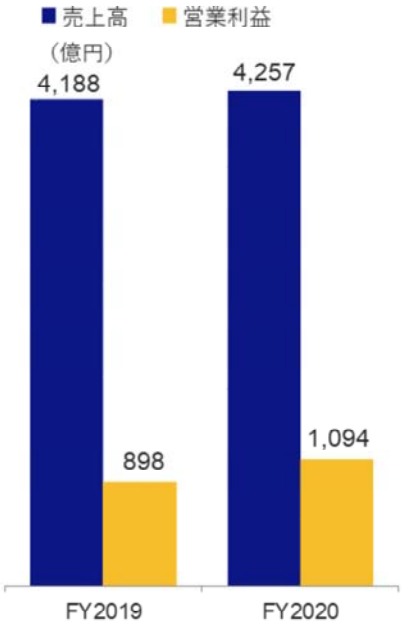
（単位：億円）	2020年3月期見通し（2月6日公表）	第4四半期実績（4-3月） 2020年3月期	見通し比	為替影響調整後	参考数値 為替+Covid-19影響調整後
売上高	8,100	1 7,974	▲2%	▲2%	0%
売上総利益（売上総利益率）	5,090 (62.8%)	2 4,996 (62.6%)	▲2%	▲2%	0%
販売費および一般管理費（販売費および一般管理費率）	4,100 (50.6%)	4,050 (50.8%)	▲1%	▲1%	▲1%
その他の収益および費用等	▲70	▲111	-	-	-
営業利益（営業利益率）	920 (11.4%)	835 (10.5%)	▲9%	▲9%	▲1%
税引前利益（税引前利益率）	870 (10.7%)	778 (9.8%)	▲11%		
親会社の所有者に帰属する当期利益（親会社の所有者に帰属する当期利益率）	640 (7.9%)	517 (6.5%)	▲19%		
EPS	48円	39円			
円／USドル	109円	109円			
円／Euro	121円	121円			
円／CNY	16円	16円			

Page 8 2020年3月期 連結決算概況 OLYMPUS

（スライド8）

- スライド8ページをご覧ください。
- こちらでは、連結業績を2月に公表した見通しと比較しております。
- 売上高、営業利益ともに、2月に公表しました見通しを下回る着地となりました。
- 当期利益は、営業利益の未達に加え、繰延税金資産の一部取り崩しも行い、見通し比で19%下回りました。
- 新型コロナウイルスの影響は、売上高には約130億円、営業利益には約80億円程度あったと考えています。
- 未達はほぼ新型コロナウイルスの影響で説明できます。

2020年3月期 通期実績 ②内視鏡事業



☑ **売上高**
- 通期実績：中国の高い売上成長（為替影響調整後+28%）を主要因として、海外が好調に推移し、増収（為替影響調整後+5%）
- 4Q実績：新型コロナウイルスの影響はあったものの、為替を除く実質ベースで前年並みの水準

☑ **営業利益**
- 増収および販管費の効率化により、大幅な増益を達成

	通期実績（4-3月）				参考数値	第4四半期実績（1-3月）				参考数値
単位: 億円	FY2019	FY2020	前年比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後
売上高	4,188	4,257	+2%	+5%	+6%	1,150	1,106	▲4%	▲1%	+2%
営業利益	898	1,094	+22%	+30%	+33%	240	178	▲26%	▲18%	▲7%
その他の損益*	▲90	▲19	-	-	-	▲21	▲12	-	-	-
営業利益率	21.4%	25.7%		26.6%	28.1%	20.9%	16.1%		17.4%	20.3%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

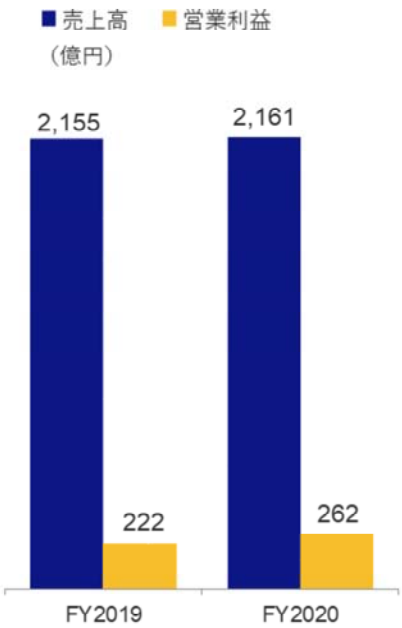
Page 9　2020年3月期 連結決算概況　OLYMPUS

（スライド9）

- スライド9ページをご覧ください。
- 各セグメントの概況について、ご説明いたします。

- まず内視鏡事業です。
- 中国に加え、政府主導のがん予防プロジェクトが進行するロシアなど、海外が好調に推移し、売上高は前年比2%増の4,257億円となりました。
- 為替を除く実質ベースでは、通期で5%の増収です。
- 第4四半期だけを見ますと、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、為替を除く実質ベースで前年並みの水準となりました。
- 先ほどご説明した十二指腸内視鏡対応費用104億円は当事業に計上されます。営業利益は、この一時的な費用を原価に計上しながらも、増収と販管費の効率化、前年に発生した一時費用の減少などにより、1,094億円、為替の影響を除くと前年比30%増加、営業利益率は25.7%となりました。

2020年3月期 通期実績 ③治療機器事業



☑ **売上高**
- 通期実績：処置具を中心に売上を伸ばし、増収（為替影響調整後+4%）
- 4Q実績：新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的として、緊急度に応じて症例数が減少し、北米、中国等で減収

☑ **営業利益**
- 増収および前年の一時費用の減少等により、増益（為替影響調整後+26%）

	通期実績（4-3月）				参考数値	第4四半期実績（1-3月）				参考数値
単位: 億円	FY2019	FY2020	前年比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後
売上高	2,155	2,161	0%	+4%	+5%	549	525	▲4%	▲2%	+3%
営業利益	222	262	+18%	+26%	+36%	14	37	+161%	+184%	+347%
その他の損益*	▲34	▲20	-	-	-	▲34	▲9	-	-	-
営業利益率	10.3%	12.1%		12.5%	14.0%	2.6%	7.0%		7.4%	12.0%

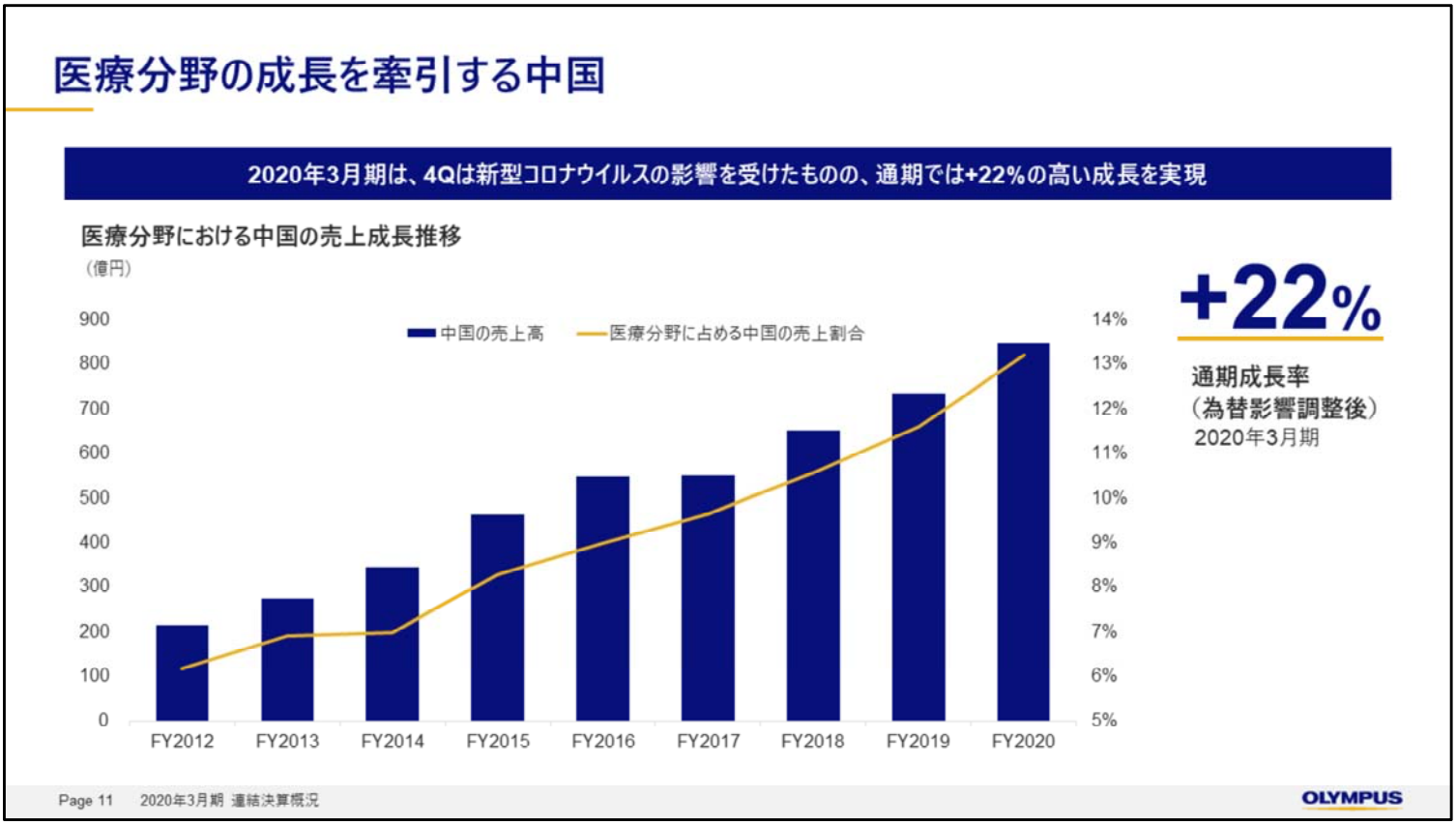
*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

Page 10 2020年3月期 連結決算概況 OLYMPUS

（スライド10）

- スライド10ページをご覧ください。
- 治療機器事業です。

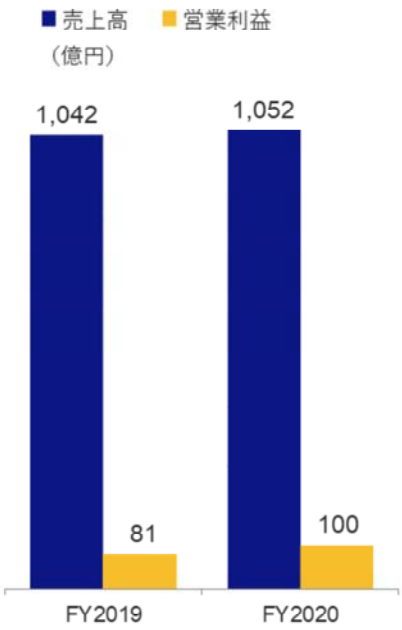
- 各地域のニーズを捉えた製品の拡販を続ける消化器関連処置具が好調に推移し、売上高は2,161億円となりました。
- 為替を除く実質ベースでは、4%成長となりました。
- 第4四半期だけを見ますと、新型コロナウイルスの影響によって、症例数が減少し、北米、中国等で減収となりました。
- 営業利益は、増収および前年に発生した一時費用の減少等により、262億円、為替の影響を除くと前年比26％増加、営業利益率は12.1％となりました。



（スライド11）

- スライド11ページをご覧ください。
- ここで、医療分野における中国市場の実績について振り返ります。
- 近年、中国市場は2桁成長が続いておりますが、特に2020年3月期は成長が加速、前年比22%増収となりました。
- 第4四半期は、新型コロナウイルスの影響により、減速しましたが、足元では回復の兆しがみられます。
- 中国市場の中長期的な市場拡大余地は大きく、成長トレンドは変わらないと認識しており、引き続き着実に成長機会を捉えてまいります。

2020年3月期 通期実績 ④科学事業



☑ **売上高**
- 通期実績：生物顕微鏡は全地域で好調に推移し、工業用内視鏡の新製品効果や非破壊検査機器の北米を中心とした売上成長により増収
- 4Q実績：新型コロナウイルスの影響により、一部地域で納品の延期等が発生し、減収

☑ **営業利益**
- 増収および販管費の効率的なコントロールにより、過去最高の営業利益

	通期実績（4-3月）				参考数値	第4四半期実績（1-3月）				参考数値
単位: 億円	FY2019	FY2020	前年比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後
売上高	1,042	1,052	+1%	+4%	+8%	310	286	▲8%	▲6%	+6%
営業利益	81	100	+23%	+37%	+60%	32	20	▲37%	▲28%	+29%
その他の損益*	▲7	▲5	-	-	-	▲6	▲1	-	-	-
営業利益率	7.8%	9.5%		10.3%	12.4%	10.3%	7.0%		7.8%	14.3%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

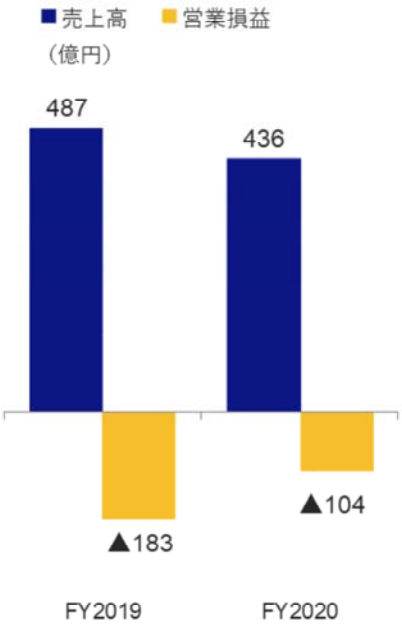
Page 12 2020年3月期 連結決算概況 OLYMPUS

（スライド12）

- スライド12ページをご覧ください。
- 続いて科学事業です。

- 売上高は1,052億円、為替を除く実質ベースでは4%増加です。
- 第4四半期だけを見ますと、新型コロナウイルスの影響により、一部で納品の延期等が発生し、減収となっております。
- 通期では、生物顕微鏡は全地域で好調に推移したことに加え、工業用内視鏡や非破壊検査機器等が売上を伸ばしたことにより、増収となりました。
- 営業利益は100億円でした。為替の影響を除くと前年比37%増と大幅な増加です。増収および販管費の効率的なコントロールにより、過去最高益となりました。

2020年3月期 通期実績 ⑤映像事業



売上高

- 通期実績：厳しい事業環境に加え、上期は生産拠点再編の影響により新製品の導入ができず、4Qには新型コロナウイルスの影響もあり、減収
- 4Q実績：新型コロナウイルスの影響もあり減収
  4Qに発売した新製品「OM-D E-M1 MarkIII」の販売は好調に推移

営業損益

- 前期に計上した生産拠点の再編に伴う費用が今期は発生していないこと、および販管費の効率化により、損失は縮小

	通期実績（4-3月）				参考数値	第4四半期実績（1-3月）				参考数値
単位: 億円	FY2019	FY2020	前年比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後
売上高	487	436	▲10%	▲8%	▲2%	103	89	▲14%	▲13%	+12%
ミラーレス	360	324	▲10%	▲7%	-	78	64	▲17%	▲16%	-
コンパクト	71	62	▲12%	▲9%	-	12	12	0%	+2%	-
その他	56	49	▲12%	▲9%	-	13	12	▲9%	▲7%	-
営業損益	▲183	▲104	+79億円	+81億円	+90億円	▲51	▲30	+21億円	+20億円	+29億円
その他の損益*	▲79	▲16	-	-	-	▲11	▲2	-	-	-
営業利益率	-	-		-	-	-	-		-	-

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

Page 13 2020年3月期 連結決算概況 OLYMPUS

（スライド13）

- スライド13ページをご覧ください。
- 続いて映像事業です。
- 売上高は、436億円、為替の影響を除くと前年比8%減少しました。
- 営業損失は、104億円、為替の影響を除くと81億円の改善です。前年同期に計上した生産拠点の再編に伴う費用が今期は発生していないことに加え、販管費の効率化等が奏功しました。
- 第4四半期に発売された新製品「OM-D E-M1 MarkIII（オーエムディー・イーエムワン・マークスリー）」は好調に推移しました。しかしながら、厳しい事業環境が続く中、新型コロナウイルスの感染拡大により、通常の販促活動ができなかったことも加わり、残念ながら想定通りの損益改善には至りませんでした。

財政状態計算書

- ☑ 国際会計基準の新リース基準（IFRS第16号）を適用した影響により、資産、負債ともに増加
- ☑ 安定的な事業運営のために現預金が増加。社債やコマーシャル・ペーパー等の発行により、社債および借入金が増加
- ☑ 自己株式の取得により資本は減少

（単位：億円）	2019年3月末	2020年3月末	増減額
流動資産	4,560	5,067	+507
棚卸資産	1,536	1,676	+140
非流動資産	4,760	5,090	+330
有形固定資産	1,769	2,021	+252
無形資産・その他	1,979	2,085	+106
のれん	1,012	983	▲29
資産 合計	9,320	10,157	+836

	2019年3月末	2020年3月末	増減額
流動負債	2,875	3,338	+463
社債及び借入金	597	810	+213
非流動負債	2,021	3,099	+1,078
社債及び借入金	1,216	1,999	+783
資本	4,424	3,720	▲704
自己資本比率	47.3%	36.5%	▲10.8pt
負債及び資本合計	9,320	10,157	+836

有利子負債：2,809（2019年3月末比+996）

Page 14　2020年3月期 連結決算概況　OLYMPUS

（スライド14）

- スライド14ページをご覧ください。
- 2020年3月末の財政状態です。
- 国際会計基準の新リース基準を適用した影響により、資産、負債ともに増加しています。
- 社債やコマーシャル・ペーパー等の発行も行い、社債および借入金が増加しました。営業キャッシュフローの増加と合わせ現預金も増加しております。
- また、棚卸資産が140億円増加しました。これは主に新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、想定通りに売上が伸びず在庫が増加したことによるものです。
- 資本は、2019年8月に実施した自己株式の取得により前期末から減少し、3,720億円となりました。
- これにより、自己資本比率は前期末比で10.8ポイント減少し、36.5％となりました。

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF：医療分野を中心とした営業利益の創出により、711億円のプラス
- ☑ 財務CF：コマーシャル・ペーパーや社債等による調達の一方、自己株式の取得（934億円）や借入金の返済により、195億円のマイナス

通期実績（4-3月）

（単位：億円）	2019年3月期	2020年3月期	増減
売上高	7,939	7,974	+35
営業利益	283	835	+552
営業利益率	3.6%	10.5%	+6.9pt
営業キャッシュフロー	669	1,335	+666
投資キャッシュフロー	▲603	▲624	▲21
フリーキャッシュフロー	66	711	+645
財務キャッシュフロー	▲829	▲195	+635
現金及び現金同等物期末残高	1,146	1,627	+482

Page 15　2020年3月期 連結決算概況　OLYMPUS

（スライド15）

- スライド15ページをご覧ください。
- キャッシュフローの状況です。

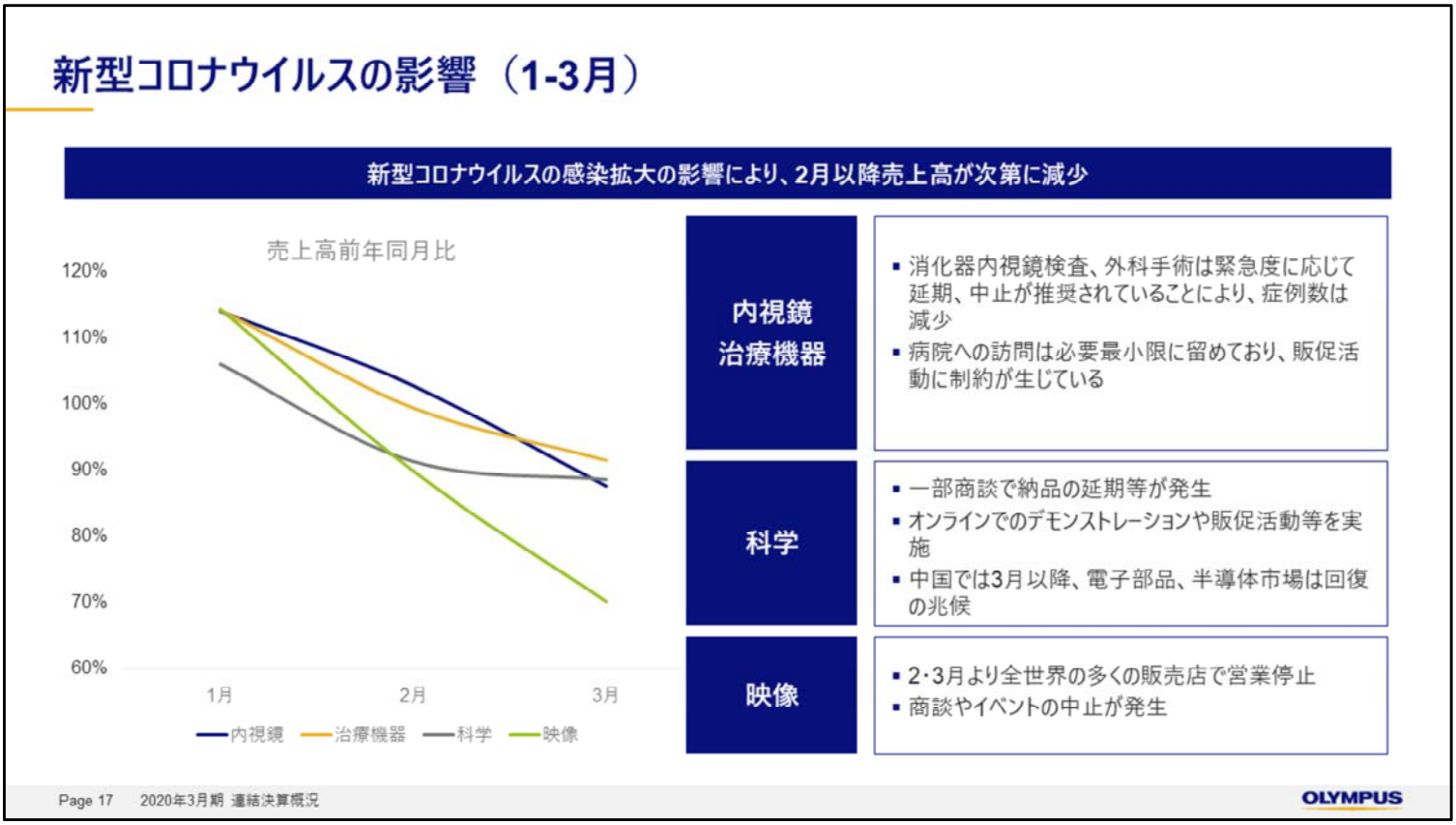
- 営業キャッシュフローは、医療分野をはじめ事業が順調に推移したことを背景に前期比666億円増加の1,335億円となりました。
- 投資キャッシュフローは、研究開発費の資産化が増加したことなどを主要因に、21億円減少、624億円となり、フリーキャッシュフローは711億円増加しました。
- 財務キャッシュフローは、コマーシャル・ペーパーや社債等による調達の一方、自己株式の取得や借入金の返済等により、195億円のマイナスとなりました。
- 結果、年度末の現金及び現金同等物残は1,627億円となりました。

OLYMPUS

02 新型コロナウイルスの影響および今後のスケジュールについて

（スライド16）

- 次に新型コロナウイルスの影響および今後のスケジュールについてご説明申し上げます。



（スライド17）

- スライド17ページをご覧ください。
- まず、1月から3月の影響についてご説明申し上げます。
- 左側のグラフは、前年売上高を100%として本年1-3月の事業別売上高推移を示すものです。新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた2月以降、次第に減少しております。世界的に感染が拡大した3月は、前年割れとなりました。
- 右側に市場の動き、活動状況などを記載しました。
- 医療分野では、消化器内視鏡検査や外科手術において、緊急度に応じた検査や手技の延期、中止が各国の学会等で推奨されており、症例数は減少しています。
- また、感染拡大防止のため、病院への訪問は必要最小限にとどめており、販促活動に制約が生じております。
- 科学事業では、一部商談で納品の延期等が発生しました。
- なお、中国では3月以降、電子部品・半導体市場に回復の兆候が見え始めています。
- 映像事業では、2月から全世界の多くの販売店が営業を停止、また商談やイベントが延期・中止となり、想定通りの販促活動ができない状況が続きました。
- こちらには記載はしておりませんが、医療現場における活動を支援するため、咽頭ファイバースコープや生物顕微鏡等自社製品を寄付しました。引き続き、可能な支援を続けてまいります。
- 4月の状況ですが、各事業ともに市場の動きや活動などに大きな変化はありません。
- 一方、4月の売上高は、前年同月の実績と比較すると、内視鏡事業で約10%減、治療機器事業で約30%減、科学事業で約20%減、映像事業で約60%減となりました。
- 営業活動に制限がある状況が続いているため、新規受注の数は前年比で減少傾向にあり、5月はより厳しい状況となっております。
- 引き続きこの状況をモニターしつつ、必要に応じて柔軟に対策を講じてまいりたいと思います。

今後の見方

FY2021の見方の前提	▪ 第2四半期末までに新型コロナウイルスの影響は徐々に収束すると仮定（中国は回復基調） ▪ 第3四半期から顧客・病院の業務が徐々に正常化され、当社も通常の営業活動に戻っていく見込みだが、収束後、急激な経済回復は期待できないと認識 （第2波が到来する可能性等、リスクシナリオとして認識しており、見通しは状況に合わせてアップデート予定）
内視鏡治療機器	▪ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、病院への訪問に制約が生じる状況が続くと想定 ▪ 各国の学会で緊急性の低い症例の延期、中止がガイドラインで策定されているため、需要の回復には時間がかかる見込み ▪ 年度末に向けて、延期されている検査や手技の実施が進み、需要は徐々に回復していくと想定
科学	▪ 生物顕微鏡：病院、大学等の教育機関の状況に左右されるため、需要回復に時間がかかる見込み ▪ 産業製品：航空や自動車産業を中心に投資先送り等の発生が見込まれる
映像	▪ 販売店の営業再開の動きもあるが、外出制限の厳しい地域も多く、SNS等、オンラインでの訴求を強化 ▪ コンシューマー市場の需要回復には、より時間を要すると想定

Page 18　2020年3月期 連結決算概況　OLYMPUS

（スライド18）

- スライド18ページをご覧ください。
- 現在2021年3月期の事業計画を見直しております。別途開催を予定している説明会で業績予想含めお知らせする予定ですが、前提や見方などについてこの場で共有させていただきます。
- 新型コロナウイルスの影響は第2四半期末までに、徐々に収束すると仮定しております。ただし中国については3か月前倒しという見込みです。
- 第3四半期から病院等の業務・当社の活動も徐々に正常化されるものの、全事業において、需要の回復には一定の時間がかかると想定しております。中でもコンシューマー製品を扱う映像事業はより時間がかかると考えております。
- 一旦、この前提で計画を立案しますが、第2波到来も含め想定通りにいかない可能性も認識し、事業計画は状況に合わせてアップデートします。
- 仕事の仕方や顧客ニーズなどにも変化があるはずです。オペレーティングモデル、ビジネスモデルを再考し、デジタライゼーションを軸として、ニューノーマルに向けた取り組みを検討してまいります。
- すでに、科学事業ではオンラインでのデモンストレーションや販促活動等を始めており、新しい取り組みにもチャレンジしています。

（スライド19）

- スライド19ページをご覧ください。
- キャッシュマネジメントについてご説明します。新型コロナウイルスの影響が長期化する可能性を視野に入れ、安定的な事業運営を継続するために、キャッシュマネジメントがこれまで以上に重要だと認識しております。
- まず、手元流動性を十分に確保するため、コマーシャル・ペーパーを追加で約800億円発行しました。
- その結果、4月末時点の連結現預金の残高は約2,100億円、3月末時点と比べて470億円ほど増加、月商換算で約3か月の手元流動性を確保しております。
- また、この4月からオリンパスグループ内の資金を集約・集中管理するグローバル・キャッシュ・プーリングを始めております。余剰資金のある地域から不足する地域への資金供給を機動的に行うことが可能となりました。効率運用に加え、機動性が求められる今回のような不測の事態において、効果が期待できます。

全ての費用・投資をゼロベースで見直し、販管費をコントロール

（スライド20）

- スライド20ページをご覧ください。
- 先行きが不透明な状況下、4月早々に初期的かつ緊急的な費用統制を開始しました。
- 新規採用の見直し・凍結、新規プロジェクトの開始時期の精査・延期、優先順位の見直し等を行うよう全社へ指示を出しました。
- 状況に応じて、適宜見直しをする予定です。

次世代の内視鏡ビデオスコープシステム「EVIS X1」を発売

EVIS X1

次世代の内視鏡ビデオスコープシステム「EVIS X1」を欧州・アジア一部地域で発売

- 病変の発見、診断、治療に革新をもたらす新技術の搭載
- グローバル統一モデル
- 人工知能（AI）を取り入れた次世代技術を開発中

その他の地域は、規制当局の承認が得られた市場から順次市場導入を進める

Page 21　2020年3月期 連結決算概況　OLYMPUS

（スライド21）

- スライド21ページをご覧ください。
- 想定通りの事業活動ができない状況が続いておりますが、内視鏡事業において、今後の成長を担う戦略製品を予定通り導入することができました。
- 4月23日に次世代の内視鏡ビデオスコープシステム「EVIS X1（イーヴィス・エックスワン）」を欧州とアジアの一部地域で発売を開始しました。
- 内視鏡による病変の発見・診断・治療の質や検査効率の向上を目指した新技術を搭載していることに加え、
- グローバル統一モデルとなっております。
- 現在、さらなるイノベーションに対する取り組みとして、人工知能（AI）を取り入れた次世代技術を開発中です。
- 本製品をはじめとした次世代技術の実現により、世界中の内視鏡医をサポートし、内視鏡診断・治療の質的向上を目指してまいります。
- その他の地域につきましては、規制当局の承認が得られた市場から、順次導入を進めていきます。

今後のスケジュールについて

2021年3月期 業績見通しについて

日時　2020年6月24日（水）
説明者　取締役 代表執行役 社長兼CEO　竹内　康雄

株主総会

日時　2020年7月30日（木）

基準日変更のご案内（2020年4月30日に適時開示済み）
基準日： 2020年5月31日（日）
公告日： 2020年5月15日（金）
公告方法：電子公告（当社ホームページ上に掲載いたします。）
https://www.olympus.co.jp/ir/

Page 22　2020年3月期 連結決算概況　OLYMPUS

（スライド22）

- スライド22ページをご覧ください。最後のスライドです。
- 今後のスケジュールについてご紹介させていただきます。
- あらためて、6月24日に今期の業績見通しについて社長の竹内からご説明させていただく機会を設けたいと思います。
- また、既に適時開示でご案内の通り、株主総会は日程を延期し、7月30日の開催を予定しております。
- この延期に伴い、本株主総会における議決権および期末配当の基準日は3月末から5月末に変更となっております。
- 株主の皆様に多大なるご迷惑をおかけしますことを深くお詫びいたしますとともに、本件に対するご理解を賜りたくお願い申し上げます。
- 私からの説明は以上でございます。

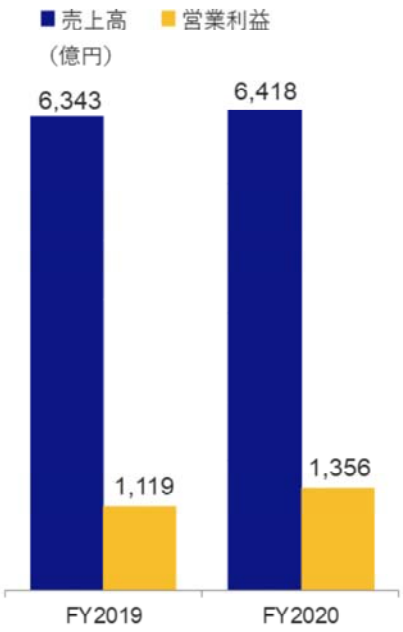
OLYMPUS

03 Appendix

参考資料：2020年3月期　通期実績 セグメント別概況

単位：億円		通期実績（4-3月） 2019年3月期	2020年3月期	前年比	為替影響調整後	参考数値 為替+Covid-19影響調整後	第4四半期実績（1-3月） 2019年3月期	2020年3月期	前年比	為替影響調整後	参考数値 為替+Covid-19影響調整後
内視鏡	売上高	4,188	4,257	+2%	+5%	+6%	1,150	1,106	▲4%	▲1%	+2%
	営業利益	898	1,094	+22%	+30%	+33%	240	178	▲26%	▲18%	▲7%
治療機器	売上高	2,155	2,161	0%	+4%	+5%	549	525	▲4%	▲2%	+3%
	営業利益	222	262	+18%	+26%	+36%	14	37	+161%	+184%	+347%
科学	売上高	1,042	1,052	+1%	+4%	+8%	310	286	▲8%	▲6%	+6%
	営業利益	81	100	+23%	+37%	+60%	32	20	▲37%	▲28%	+29%
映像	売上高	487	436	▲10%	▲8%	▲2%	103	89	▲14%	▲13%	+12%
	営業損益	▲183	▲104	+79億円	+81億円	+90億円	▲51	▲30	+21億円	+20億円	+29億円
その他	売上高	67	68	+2%	+2%	+2%	16	18	+12%	+12%	+12%
	営業損益	▲35	▲27	+7億円	+7億円	+7億円	▲13	▲9	+4億円	+4億円	+4億円
全社・消去	営業損益	▲700	▲490	+210億円	+208億円	+207億円	▲144	▲145	▲1億円	▲4億円	▲4億円
連結合計	売上高	7,939	7,974	0%	+4%	+5%	2,128	2,023	▲5%	▲3%	+3%
	営業利益	283	835	+195%	+232%	+259%	77	50	▲35%	▲8%	+92%

参考資料：2020年3月期　通期実績 医療事業



☑ **売上高**　中国の高い売上成長を主要因に、増収。3期連続、過去最高の売上高を達成

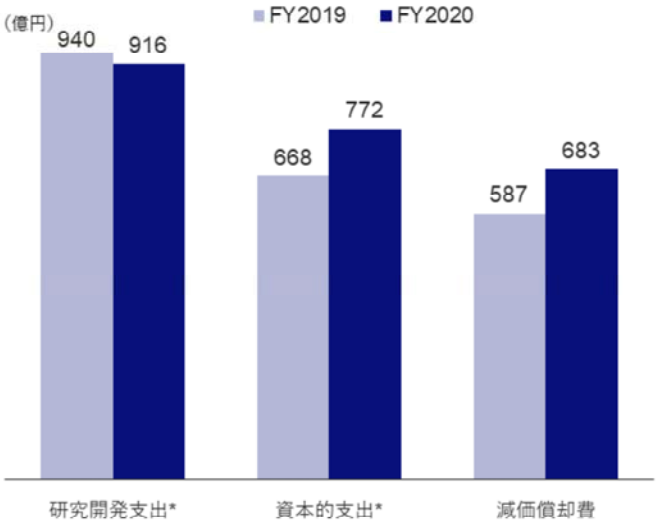
☑ **営業利益**　内視鏡事業の増収および販管費の効率化を主要因として、大幅な増益

	通期実績（4-3月）				参考数値	第4四半期実績（1-3月）				参考数値
単位: 億円	FY2019	FY2020	前年比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後	FY2019	FY2020	前年同期比	為替影響調整後	為替+Covid-19影響調整後
売上高	6,343	6,418	+1%	+5%	+6%	1,699	1,631	▲4%	▲2%	+2%
内視鏡	3,409	3,464	+2%	+6%	-	932	883	▲5%	▲3%	-
外科	2,111	2,104	0%	+3%	-	563	547	▲3%	▲1%	-
処置具	822	850	+2%	+5%	-	204	202	▲3%	▲1%	-
営業利益	1,119	1,356	+21%	+29%	+34%	254	215	▲15%	▲7%	+13%
その他の損益*	▲124	▲38	-	-	-	▲55	▲21	-	-	-
営業利益率	17.6%	21.1%		21.8%	23.3%	15.0%	13.2%		14.2%	17.5%

* 決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

参考資料：投資等

通期実績（4-3月）



（単位：億円）	FY2019	FY2020
研究開発支出* (a)	940	916
開発費資産化 (b)	94	230
損益計算書上における研究開発費 (a-b)	846	686

（単位：億円）	FY2019	FY2020
償却費	76	72
	2019年12月末	2020年3月末
開発資産残高	422	477

* 研究開発支出および資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています